# 講演プログラム

Program

| | |
|---|---|
| 13：30～13：35 | 開会挨拶<br>東洋大学 国際地域学部学部長　教授 藤井 敏信<br><br>来賓挨拶<br>環境省 自然環境局動物愛護管理室　室長 田邉 仁 |
| 13：35～14：35 | **事例発表講演①**　西武グループ Pet Smile Project の取り組みについて<br>株式会社西武ホールディングス 社長室マネジャー 緒方 寿光<br><br>**事例発表講演②**　ペット同伴宿泊事業への今後の取り組みについて<br>藤田観光株式会社 企画グループ部長経営企画・事業推進担当<br>執行役員　中村 雅俊<br><br>**事例発表講演③**　STOP 熱中症！STOP 誤飲！　-わたしたちにできること-<br>アニコム損害保険株式会社 獣医師 尾上 翠<br><br>**事例発表講演④**　ペット・ツーリズムの今後のあり方を考える<br>東洋大学 国際地域学部 教授/<br>公益社団法人 日本愛玩動物協会 会長 東海林 克彦 |
| 14：35～15：25 | **パネルディスカッション**<br>コーディネーター　松園 俊志（東洋大学 国際地域学部国際観光学科 教授）<br>パネリスト　田中 健司（アドホック株式会社 代表取締役社長）<br>中村 雅俊（前掲）<br>尾上 翠（前掲）<br>東海林 克彦（前掲） |
| 15：25～15：30 | 閉会挨拶<br>東京都福祉保健局　環境衛生事業推進担当課長　澁谷智晃 |
| 16：00～ | **懇親会**　（希望者のみ、会費制 2,500 円）<br>於 8 号館 1 階 レストラン「TRESS　DINING」 |

※プログラムは一部変更となる場合がございます。

事例発表
講演①

# 西武グループ
# Pet Smile Project の取り組みについて

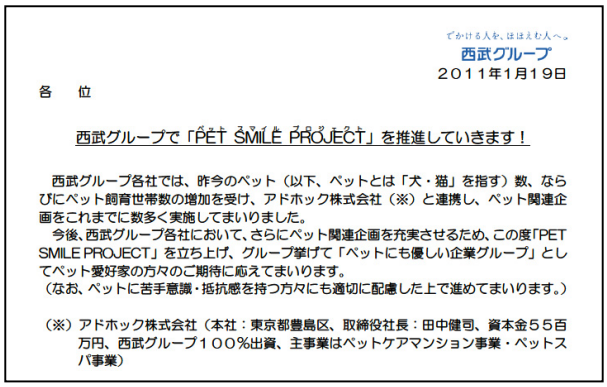
株式会社西武ホールディングス　**緒方寿光**

西武グループは「愛犬と一緒にでかけたい」「もっと楽しい思い出を作りたい」というお客さまの声にお応えして、ペットと暮らす多くのお客さまの「行動」を広げ、「感動」を生み出すことを目的とした「Pet Smile Project」を 2011 年 1 月に立ち上げました。

現在、都心や軽井沢、箱根を中心としてエリア展開し、愛犬と一緒に宿泊できるホテルやコテージをはじめ、一緒にご利用できるカフェやレストラン。その他にも遊園地などでのワンちゃんが主役のイベントの開催、水族館や遊覧船、ロープウェーなど愛犬と一緒に楽しめる施設・サービスを多数ご用意しています。特に、「グランドプリンスホテル新高輪」は東京で一番”ドッグフレンドリー”なホテルを目指し、愛犬と一緒に宿泊できる客室「ドッグフレンドリールーム」に加え、セルフスタイルのお預かり施設「ドッグクローク」のほか、愛犬と一緒にくつろげる「専用ラウンジ」や全天候型の「ドッグラン」など、愛犬と優雅なひとときをお楽しみいただけるようなサービスを充実させています。

また、おでかけスポットだけではなく、ペットケアやペットクリニックなど、愛するペットが「健やかに美しく」あるための総合的なケアサービスを株式会社アドホックが「PET-SPA」として東京都、埼玉県、神奈川県などの６エリアに 16 店舗を展開しています。

今後とも西武グループでは、グループの「経営理念」に基づいて、お客さまの生活を応援する企業として、引き続き「Pet Smile Project」のサービス拡充に努めてまいります。


でかける人を、ほほえむ人へ。
西武グループ
２０１１年１月１９日

各　位

西武グループで「PET SMILE PROJECT」を推進していきます！

西武グループ各社では、昨今のペット（以下、ペットとは「犬・猫」を指す）数、ならびにペット飼育世帯数の増加を受け、アドホック株式会社（※）と連携し、ペット関連企画をこれまでに数多く実施してまいりました。
今後、西武グループ各社において、さらにペット関連企画を充実させるため、この度「PET SMILE PROJECT」を立ち上げ、グループ挙げて「ペットにも優しい企業グループ」としてペット愛好家の方々のご期待に応えてまいります。
（なお、ペットに苦手意識・抵抗感を持つ方々にも適切に配慮した上で進めてまいります。）

（※）アドホック株式会社（本社：東京都豊島区、取締役社長：田中健司、資本金５５百万円、西武グループ１００％出資、主事業はペットケアマンション事業・ペットスパ事業）

図１：プロジェクト発足時のプレスリリース（抜粋）

図２：2012 年度の告知用ポスター

株式会社西武ホールディングス 社長室マネジャー 緒方 寿光

■略歴

1995 年　西武鉄道株式会社入社。鉄道事業部門、経理部門、株式会社西武ライオンズ出向、不動産事業部門を経て、2011 年より現職。

事例発表
講演②

# ペット同伴宿泊事業への
# 今後の取り組みについて

藤田観光株式会社　**中村雅俊**

15 歳未満の子供の数よりもペットの飼育頭数が多くなっている現代では、ペットは「番犬」としてではなく「大切な家族の一員」として飼育されている。そのため、ペット飼育者の旅行スタイルも「ペットを預けて」楽しむことから「ペットと共に」楽しむスタイルへと変化してきており、ペットにやさしい車の開発や高速道路の SA・PA におけるドッグランの設置など、ペット同伴旅行に対する環境整備が行われてきている。そんな顧客動向に合わせて宿泊施設も“ペット同伴宿泊可能”をうたう施設が増えてきた。

しかし、現状では、ペットの生理生態に合わせた「ペットと人が共に満足できる宿泊施設」の数は少なく、公的な施設基準・運営基準等も整備されていない。ペット飼育者の中にも、ペットと一緒に旅行をしたいが、施設面・設備面・緊急時の対応やペットへのストレス等に対する不安により、旅行へ踏み出せない潜在顧客もいる。現に当社も過去に、ペット同伴可能な客室やホテル併設のペット預かり施設の設置、ペットと一緒に楽しめる宴会イベントの企画・運営等を行ったが、施設面・運営面の問題により継続が困難となった。

そこで、ペットと人がストレスを感じることなく共に楽しめ、安心してペット同伴旅行に出かけられる環境・風土の創出を目標に、野尻湖にある自社遊休土地を舞台に「ペットと人のかけがえのないひととき」を提供できる施設開発・運営を目指すこととした。この施設では、よりニーズに合致した愛犬同伴宿泊施設として既存顧客・潜在顧客のニーズを把握しつつ、当連絡協議会および東洋大学の協力を得ながら、施設基準・運営基準の策定を行い、国内での標準化を目標に推進する。

図 1：ペット同伴宿泊施設建設予定地（野尻湖）

藤田観光株式会社 企画グループ部長経営企画・事業推進担当
執行役員　中村 雅俊

■略歴

1984 年駒澤大学文学部卒業後、藤田観光株式会社へ入社。フォーシーズンズホテル椿山荘東京営業企画課長、太閤園副総支配人、経営企画部長を歴任後、2012 年より現職。

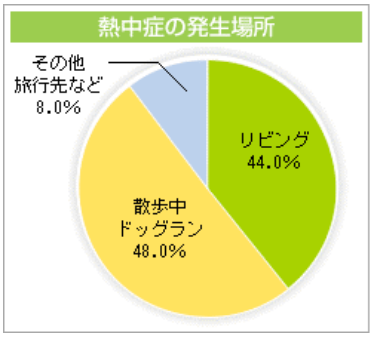
事例発表
講演③

# STOP！熱中症 STOP！誤飲
## ーわたしたちにできることー

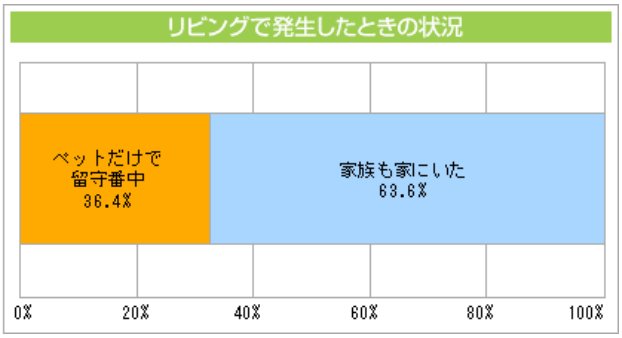
アニコム損害保険株式会社　**尾上翠**

近年、ペットと一緒過ごすことができる環境や、便利な設備・食事その他のサービスを提供する施設が増えてきている。愛犬と一緒という需要が多いため、犬に関してのサービスが特に多くなってきている。一緒に泊まれる宿泊施設、広いドッグランの併設、一緒に入れる貸し切りのお風呂、愛犬用のメニューが用意されていることもある。このような環境が整う中で、旅先で起こりうる怪我や病気、その他トラブルに対する対処方法を事前に把握しておくことは、ペットとの楽しい旅を実現するために必要なことである。また、ペット同伴可の宿泊施設で一番問題となっているのは、トイレのトラブルと無駄吠えという報告があることから、旅先でペットがリラックスして過ごせるよう、日々のトレーニングも必要となる。

旅先での病気について特に重要だと考えられるのは、熱中症と誤飲である。熱中症の発症場所は、ドックラン・散歩 48%、リビング 44%、その他旅行先など 8%の割合となっている。旅行先における熱中症の原因としては、マイカーでの移動・車内でのお留守番、長時間の運動である。誤飲事故の原因になりやすいものは、竹串やトウモロコシの芯、果物や梅干の種、ヒトの医薬品、石、砂、靴下などの布類、紐など、ヒトの身近にあるものが多いという報告がある。旅先では、テリトリー外に出たために、探究心が刺激されることやペット･オーナーの気の緩みが発生率を上げる要因となっている。その他のトラブルとしては、肉球の怪我や嘔吐・下痢などの消化器症状が見られる。




今後、ペット・ツーリズムが浸透していく上で、ペット・オーナーのマナーやペットのしつけに対する共通認識を高めていく必要がある。人とペットが上手に共生できる社会を目指していくために、今回は、データを交えながら、旅行の事前準備・トラブルに対する対処方法などについて獣医師の視点から提案する。



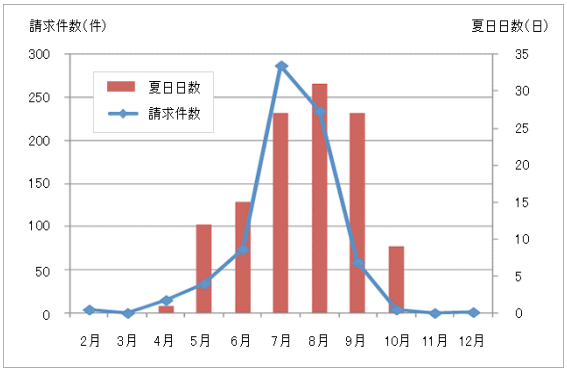
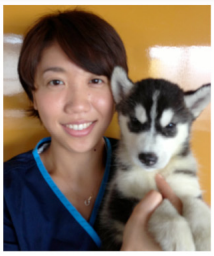




図１：アニコム損害保険会社　ニュースリリース



アニコム損害保険株式会社 獣医師 尾上 翠

■略歴

2006 年麻布大学獣医学部獣医学科卒業　2006～2012 年動物病院勤務
2012 年～アニコム損害保険会社勤務。

事例発表
講演④

# ペット・ツーリズムの今後のあり方を考える

東洋大学/公益社団法人日本愛玩動物協会　**東海林克彦**

近年、ペット・ブームを背景として、観光地等においてペットとの同伴宿泊旅行の需要が増大しつつある。このような状況を踏まえて、現在、観光業界におけるペットへの対応は、ホテル事業者や旅行代理店などにおいて、ニッチをねらったニュービジネスとして大きな関心を呼んでおり、各種関連施設の整備や旅行商品の企画・販売などが進みつつある。

また、近年、首都圏における新規分譲マンションの８割強がペットと一緒に暮らせるものになり、都市公園においても相次いで公設ドッグランの整備が進められているなど、「適正飼養の普及」については、ソフト面を重視した従前までの動きとは異なり、ハード面からも人と動物とが共存できる社会基盤施設の整備が推進され始めている。

しかし、これらの実態を見てみると、飼い主のニーズやペット生理生態等が客観的かつ定量的に調査分析されないままに施設の整備やサービスの提供がなされていることが主な原因であると考えられるが、適正飼養を含めて、利用者の需要を質的・量的に満たすことができるような供給がなされているとはいえない状況にある。

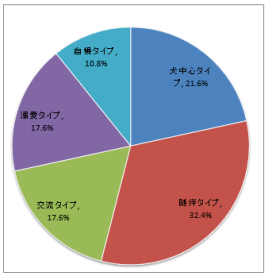
このような問題意識のもと、現在、東洋大学国際観光学科及び（公社）日本愛玩動物協会においては、ペット・ツーリズムに関する観光事業を適切に推進するための知見をとりまとめるとともに、（公社）日本愛玩動物協会の目的である適正飼養等の普及啓発を時代の要請や飼い主の意識・行動の変化を踏まえながら新たな視点や方法で展開をしていくべく、ペット・ツーリズムに関する実態の調査・分析、ペット・ツーリズムの今後のあり方を示す指針となるガイドラインの作成作業を、関係行政機関及び全国ペット・ツーリズム連絡協議会の構成メンバーの方々と連絡調整を図りながら進めているところである。

ホテル設計、交通機関の利用、ペット同伴の規制や法令…

「ペットとの旅行」学ぶ講座

東洋大学が日本初開講

図１：東洋大学における「ペット・ツーリズム論」の講義（（公社）日本愛玩動物協会による寄附講座として開講）




| タイプ名称 | 構成比 | 特徴 |
|---|---|---|
| 犬中心タイプ | 21.6% | のびのびと過ごさせてあげたい |
| 随伴タイプ | 32.4% | 一緒に旅行するのは当然のこと |
| 交流タイプ | 17.6% | 旅行先で飼い主同士の交流を図りたい |
| 溺愛タイプ | 17.6% | 心配で他人に預けて旅行できない |
| 自慢タイプ | 10.8% | 飼い犬はステータスシンボル |

出典：須藤加那子（2012. 東洋大学国際観光学専攻修士論文）

図２：同伴宿泊旅行における飼い主のタイプ分類（クラスター分析）：須藤加那子（2012. 東洋大学国際観光学専攻修士論文）

東洋大学国際地域学部国際観光学科教授
（公社）日本愛玩動物協会会長　東海林　克彦

■略歴

2007 年より東洋大学国際地域学部国際観光学科教授、2012 年より（公社）日本愛玩動物協会会長を兼務。博士（農学）。専門は、観光レクリエーション計画論、景観論、環境評価論

ペット・ツーリズム宣言（案）

平成２５年７月２３日

全国ペット・ツーリズム連絡協議会

ペット・ツーリズムの適正な推進は、観光立国推進基本法において主唱されている施策である「地域特性を踏まえた魅力ある観光地域づくり」に寄与するのみならず、マハトマ・ガンジーの言葉に象徴されるように、動物愛護管理法の究極的な理念である「人と動物とが共存できる優しい社会の実現」にも多大な貢献をするものである。

※マハトマ・ガンジー（1869 年 - 1948 年）

"The greatness of a nation and its moral progress can be judged by the way its animals are treated."

"国の偉大さと道徳的発展は、その国における動物の扱い方で判る"

しかし、現在、ペット・ツーリズムは、単なる一過性のニュー・ツーリズムの一種として認識されている傾向が強く、また、その実態も飼い主やペット側のニーズの把握が不十分なままに、供給側である事業者サイドの意向を強く反映して予定調和的に進められているきらいがある。

このような現状を踏まえて、全国ペット・ツーリズム連絡協議会においては、ペット・ツーリズムの適正な推進が着実に図られる体制の構築を目指して、産官学民の連携協力のもとで、科学的な知見に基づいたガイドラインやペット・インフラストラクチャーの整備が、飼い主のニーズやペットの生理・生態を十分に斟酌しながら進められていくように努めていくこととする。

**この宣言文章については、パネルディスカッションにおいて検討を予定しているものです。**

全国ペット・ツーリズム連絡協議会　事務局

お問い
合わせ

公益社団法人日本愛玩動物協会
〒160-0016　東京都新宿区信濃町８－１
TEL.03-3355-7855　FAX.03-3355-7880